

第十回労働調査報告（大電争議顛末）

▽電業員組合の創立と内容

大阪電燈株式會社は大阪市北區中之島五丁目に本社を置き、北區安治川二丁目、西區春日出の二箇所に發電所、變壓所を有し、堺市には修繕所を、其他高津、（註）茶屋等に製作所、營業所を設け、其送電區域は大阪市及其接續地に股がり、一日の供給電力は動力及燈用を合して一日五萬九千基に達し、従業員二千七百餘名を算する關西に於ける有數の會社なるが、此等二千七百餘名中大多數の労働者は、大正九年三月廿一日電業員組合を創立したり。組合長を佐藤安太郎とす。同組合の創立は當時大阪汽車製造株式會社を根據としたる大阪鐵工組合に負ふところ多し。而して其由來するところは、遠く大正八年の秋、農商務省が華盛頓に開かれし第一回國際労働總會の労働者代表選出のための協議會を其省に開くや、大阪鐵工組合を代表して堂前孫三郎、大阪府を代表して同組合員坂本孝三郎の兩氏會議の爲め東京へ來れるが、此時佐氏藤は應援團長と自稱して上京し、何吳となく奔走したり。同協議會の閉づるや此因縁を以て坂本氏等は佐藤氏を助け電業員組合を組織せしめたるなり。

大阪鐵工組合は、労働協調的色彩の濃厚なるを以て知らる。大阪汽車製造株式會社重役長谷川省吾